

2026年度 明治大学法科大学院 論文試験問題

【刑 法】

※各自で解答用紙に「第1問」「第2問」と記入して解答すること。

第1問

次の【事例】を読んで、後記の【設問】に答えなさい。

【事例】

甲（男、25歳、身長175センチメートル、体重60キログラム）及び乙は、資産家で独り暮らしのAが長期海外出張で自宅を留守にしているという情報を入手したことから、A宅に空き巣に入り、盗んだ金品を山分けすることを合意した。甲及び乙は、8月1日午前2時に空き巣を決行すること、甲がA宅の窓を割って中に侵入して金目の物を盗み出すこと、乙がA宅の外で見張りをすること、乙が音をたてずに窓のガラスを切り取ることのできる道具を準備して持参することを内容とする計画を策定した。

8月1日午前2時、甲及び乙はA宅前に集合し、乙は、持参した上記道具を甲に手渡した。甲は、その道具を利用してA宅居間の窓のガラスを切り取り、開いた穴から手を差し入れて鍵を開け、A宅居間に入った。甲が居間の中を物色していたところ、Aに頼まれて家の掃除に来てそのまま泊まっていたAの息子B（男、33歳、身長170センチメートル、体重65キログラム）が、物音を聞いて居間に現れた。Bは、甲を見つけると、「誰だ。そこで何をしている。」と叫んだ。

甲は、不測の事態に備えて持参していた果物ナイフ（刃体の長さ12センチメートル）を取り出してBに示し、「騒ぐな。外には、仲間がいる。大人しく金を出せ。」と、ドスの利いた低い声で申し向けた。Bは、「この男1人なら、追い返せるかもしれないが、仲間もいるなら敵わないかもしれないし、刺されたくない。」と考えて怯えてしまい、「金なら出すから、刺さないでくれ。」と答えた。甲が上記ナイフをBに見せつけながら「早く出せ。」と要求すると、Bは、クローゼットの中から手提げ金庫を出して鍵を開け、中に入っていた現金200万円を差し出した。甲は、その現金200万円を受け取ると、A宅の外に出て、そこにいた乙に「終わったぞ。」と声をかけ、乙と共に逃げ去った。乙が「男の叫び声が聞こえたけど、何かあったのか？」と甲に尋ねたのに対し、甲は、「人がいたので、カツアゲに切り換えた。」と答えた。甲の回答を聞いた乙は、「そうか。」と言うだけで、特段の異論を申し述べなかった。

【設問】 甲及び乙の罪責を検討しなさい。ただし、住居侵入罪（刑法130条前段）及び特別法違反の罪は、検討対象から除外する。

第2問

次の【事例】を読んで、後記の【設問】に答えなさい。

【事例】

甲は、Aを殺害したうえでAが所有かつ所持している時価1億円のワインを奪うことを決意した。甲は、某日深夜、A宅に押し入り、Aの心臓付近をめがけてアーミーナイフで刺して、Aを殺害した。その直後、甲は、ワインクーラーの中から上記ワインを取り出し、これを持ち去った。

【設問】 以下の（1）及び（2）に答えなさい。

- （1）【事例】の甲の所為に刑法240条後段を適用できると解する立場を採用する場合、その理由として指摘できることを、すべて答えなさい。下記（2）の立場に対する批判を含めても、よいこととする。
- （2）【事例】の甲の所為に刑法240条後段を適用できない（同199条および236条1項を適用し、觀念的競合〔同54条1項前段〕として処理すべき）と解する立場を採用する場合、その理由として指摘できることを、すべて答えなさい。上記（1）の立場に対する批判を含めても、よいこととする。